

第5回委員会論点の検討結果

2013年4月2日

埋施設設置に関する技術専門委員会

(1) 地域とのコミュニケーションの場の立ち上げ

【主なご意見】

- 地域とのコミュニケーションを開始する前に事業の必要性、位置付けを初期の段階で明確に伝えることなど、検討・調整のプロセスが必要。
- 地域における「関心」の度合いや市民参加の程度は、自治体により多様であり、自治体の事情に合わせて地域とのコミュニケーションを立ち上げることが必要。
- 自治体には多様の経験があるため、それを踏まえて地域とのコミュニケーションを構成していくことが必要。



【対応策】

- ◎ 埋設事業の内容を検討することが、直ちに立地の受け入れには直結しないような方策とする。
- ◎ 自治体に対してはあくまで勉強会等への関心の有無を確認し、段階的な勉強会等を通じて、地域とのコミュニケーションの場を構築していくものとする。
- ※ 資料6-3参照

(2) 地域とのコミュニケーションの場の運営

【主なご意見】

- 地域における多様なステークホルダーとの関係はそれぞれの場面によって異なってくる
ことと、自治体にはそれぞれの考え方・経験があり、地域によって対応の仕方に違いが
あるため、それらに応じた対応が必要。
- 安全性など技術的なところは事業者が責任を持って説明し、地域は事業者の安全評価
結果を受け入れられるか否かと、環境保全、経済性・利便性、社会的要件、地域の
ニーズ等について議論し、地域とのコミュニケーションのプロセスにおいて了解を得る
ことが必要。



【対応策】

- ◎ 地域の事情に合わせて、地域とのコミュニケーションにおける参加団体、組織構成、
勉強・協議内容等に関して合意を形成しつつ、運営していくこととする。
 - ◎ 埋設施設の特徴、安全要件の確認、地域共生、その他の影響、必要な追加調査等、
コミュニケーションの内容や進め方は、自治体の制度や慣習等に応じて対応していく。
- ※ 資料6-3参照

(3) 立地選定に係る基準

【主なご意見】

- 安全性などは事業者が責任を持って明らかにすることとして、環境保全、経済性・利便性、社会的要件について地域とのコミュニケーションの場で議論する必要がある。
- 施設の安全性については、事業者による評価の結果を受け入れられるか否かの議論を地域とのコミュニケーションの場で行う。



【対応策】

- ◎ 立地選定にあたり考慮すべき項目は、地域が候補地を抽出するに際して事業者側から提案する候補地の要件や好ましい条件から構成する。
- ◎ 安全性については、IAEAの浅地中処分安全要件や原子力安全委員会の安全審査指針における基本的立地条件等に基づいて基準項目を定める。
- ◎ その他は地域とのコミュニケーションの場において、候補地としての好ましさを検討する上での拠り所となるような項目を示す。

※ 資料6-4参照